

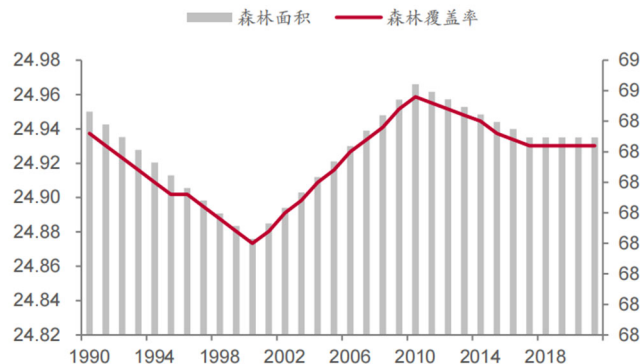
## 中国における日本のスギ

日本は近年、中国への原木輸出が急増しているが、その主な理由は、日本の昔の林業政策にある。戦後、日本経済の急速な復興により、木材需要が急増した。このため、日本は特に広葉樹の天然林を伐採し、針葉樹の人工林に植え替える政策を奨励した。その主な植林樹種はスギであった。

1960年代、日本が原木の輸入を自由化したため、海外から安価な木材が大量に流入し、その結果、各地の経済林は生産能力過剰の状態に陥った。2017年以前、スギはその構造強度から建築材としての使用が禁止されていた。また、日本のスギは色差が大きく、傷が多く、刺激臭があるため、中国の消費者はスギの家具をあまり好まず、中国での用途は主に物流梱包などであった。2018年8月1日、中国は「木造設計規範」を改訂し、日本のスギを強度等級TC11B（ニュージーランドのラジアータパインと同等）とした。これは、事実上、建築材料としてのスギを解禁したに等しく、その結果、中国の日本スギに対する需要も若干伸び、円安もスギの輸出を促す要因となった。一方、日本では輸入材が日本産スギの市場を圧迫し、日本の林業は低迷の一途をたどっている。

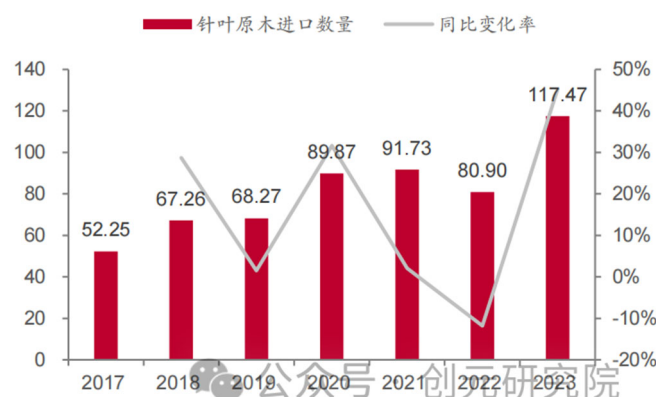
### 日本の森林面積と森林被覆率（単位：万平方 km）

图 47: 日本森林面积和森林覆盖率（万平方千米）



资料来源：iFinD、创元研究

### 中国が日本から輸入する原木の量（単位：万立方米）



资料来源：海关总署、创元研究

日本円対オフショア人民元の為替レート



资料来源: iFinD、创元研究

円レート指数



资料来源: iFinD、创元研究

日本は現在、過去に大量植林された樹木を集中伐採している時期である。そのため、将来的に中国への日本スギの供給はまだ伸びる可能性があるが、ラジアータパインや中国国産材からのプレッシャー、さらに日中外交関係の不安定要素を考えると、日本スギの市場シェアが大幅に躍進するのは非常に難しい。